

Beethoven Symphony No.9 Choral

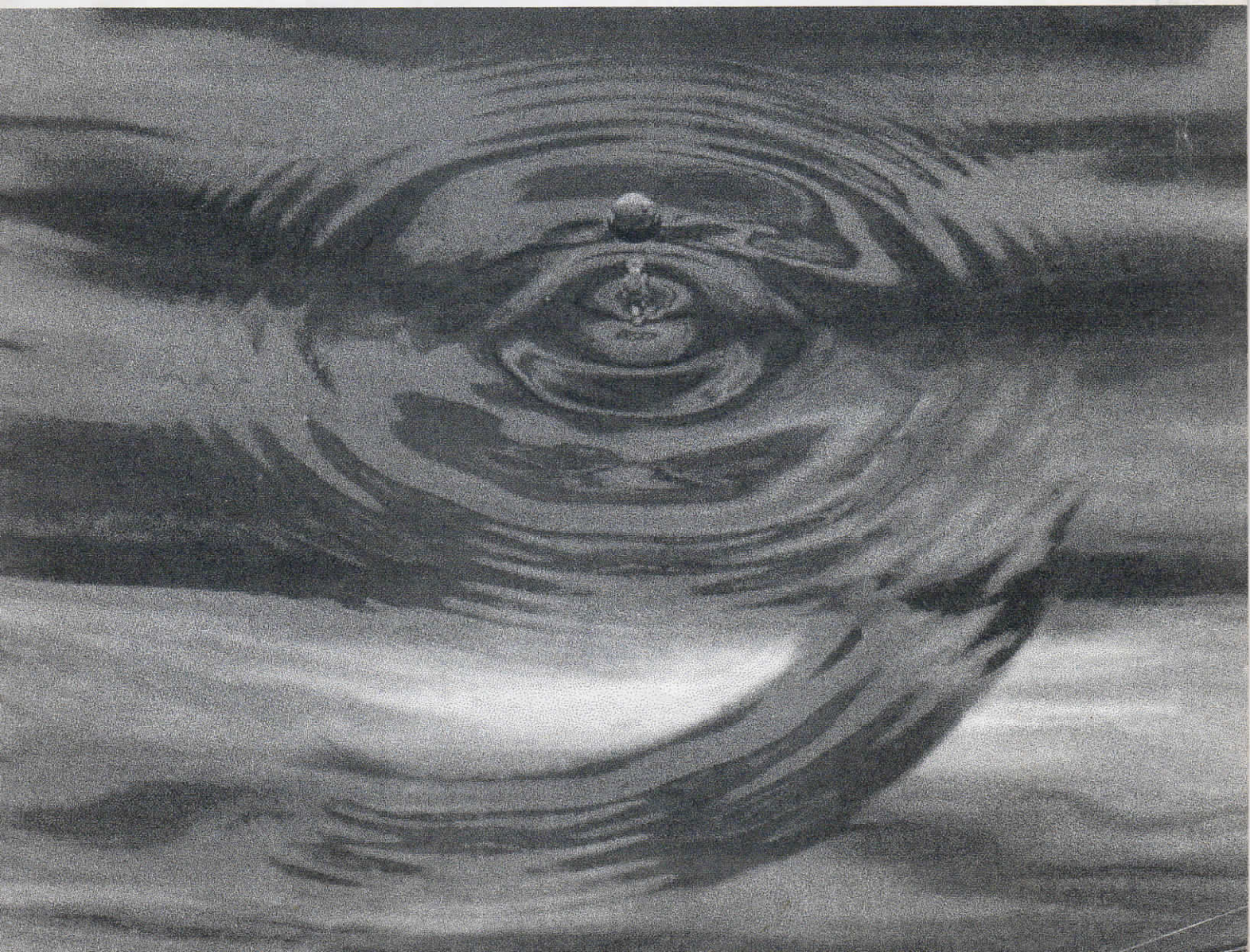
第1回「黒部で第九を歌う会」演奏会

ピアノ10台ピアニスト20人と250人の合唱による

名水の里 第九コンサート

5/30(日) 開演午後2:00

YKK体育館



名水の里に響け!! 歓喜のハーモニー'93





◇曲 目

ベートーヴェン：エグモント序曲 ヘ短調 作品84

ブラームス：2台のピアノのためのハイドンの主題による変奏曲 作品56b

4人のソリストによるオペラ・アリア名曲集

ベートーヴェン：交響曲第九番 二短調 作品125「合唱付き」第4楽章

●
◇指 揮

土井 浩

●
◇独 唱

ソプラノ 岩井 理花(二期会会員)

ア ル ト 岩森 美里(二期会会員)

テノール 福井 敬(二期会会員)

バ ス 高橋 啓三(二期会会員)

●
◇合 唱

黒部で第九を歌う会

●
ピアノ10台・デュオピアニスト20人による40手のオーケストラ

(国際ピアノデュオ協会会員)

●
◇アリア伴奏

加藤 徹

名水の里 第九コンサートの公演にあたって

黒部で第九を歌う会会長 森丘 實



昨年の6月30日結成いたしました「黒部で第九を歌う会」が、今般、新装間もない吉田工業株式会社体育館において、ピアノ10台、デュオピアニスト20人のオーケストラで第九コンサートを開催するはこびとなりました。

ここに、これまでにご指導、ご支援賜りました黒部市・黒部市教育委員会・北日本新聞社・北日本放送・富山県合唱連盟・黒部第九友の会はじめ、関係団体・関係各位に厚く感謝申し上げます。

輝く雪の峰々にはじまる黒部の自然は極めて魅力的で広く内外に知られております。この名水の里で、楽聖ベートーヴェンの芸術の頂点とも言われる第九交響曲「歓喜」のハーモニーが響きわたることを楽しみにしてまいりました。

どうか、この「大合唱」はスタートしたばかりであります、更に歌唱力が高められて、第九の歓喜とその感動が地域のゆたかな文化風土の発展につながることを切に念じてやみません。

終わりに、指揮の土井 浩先生、二期会のソリストの黒部とご縁の深い岩井理花さん、さらに岩森美里さん、福井 敬さん、高橋啓三さん、並びに国際ピアノデュオ協会の方々に深く敬意と謝意を表します。

ベートーヴェン交響曲第九番の演奏会に寄せて

黒部市長 荻野幸和



このたび「黒部で第九を歌う会」の記念すべき第1回演奏会が開催されるに当たりひと言ごあいさつを申し上げます。

広く市民参加のもとにベートーヴェン交響曲第九番の演奏会を開催され、身近にクラシック音楽を鑑賞できるこの企画は、まさに、市民待望の演奏会であり、地域における新しい芸術文化のあり方を模索する貴重な機会であると確信しております。

人間の生活の中で音楽ほど心の奥底に溶け込み、生きる喜びと励ましを与えてくれるものではありません。老いも若きも一つになってこの「黒部で第九を歌う会」を成功へ導かれるよう大きな期待を寄せるものであります。

どうか会員各位におかれましては、なお一層健康に御留意いただくとともに、日夜練習に励まれた成果を十分に発揮され、本日の演奏会が成功裏に開催されますよう、心からお祈り申し上げましてお祝いの言葉といたします。

名水の里黒部の大地に響け

黒部第九友の会会長 中上 彬



この度、名水の里第九コンサートを催すことになり、私達関係者一同感無量のものがございます。本日を迎えられるのも偏に御援助を賜りました「黒部第九友の会」の皆様方のお陰と心より感謝申し上げます。また「黒部で第九を歌う会」結成以来、約8カ月間にわたり、熱心に合唱の御指導をくださいました諸先生方の御努力には深甚の謝意を捧げるものであります。

さて、わが国は戦後の荒廃からいち早く立ち直りました。これもすべてを失った人々が心をつ一つにして励んだからでしょう。その陰には明るい歌声に負うところもあつたといえます。しかし、余りにも急速な経済の発展、物質文明の発達はずかしの歪みを生じ、心の荒れを招いてしまいました。清らかな、豊かな心こそ真の平和、健全な人間形成に大切なものでしょう。

黒部市政40周年を迎えるにあたり、ますます美しい町づくりこそ私達に与えられた責務です。“ものみな歓喜を天より受けて良し悪し距てず幸に輝く”と歌う「歓喜の歌」こそ、私達の心の糧にふさわしいものと思います。名水の里黒部の大地に響けと諸人心を合わせて合唱するのが夢です。

この第一回演奏会が成功裏に終わりますことを祈るとともに、今後とも末永き御支援をお願い申し上げます。

歓喜のうたの魅力

北日本新聞社代表取締役社長 上野隆三



「第九」はついに県東部にも誕生した。

富山に続いて新湊、砺波と県西部に広がっていたのだが、今度は黒部と県東部にも波及し、全県下に輪ができてあがったのは嬉しい。

「第九」が富山県内で初めて歌われたのは、昭和26年12月23日。いまの県庁中央部にあった県議場においてであった。戦後の混乱期によくも合唱の灯をとめたものである。それから40年余、「第九」は連綿として歌い続けられ、県民の心にしっかりと根付いた。

「第九」の輪は8年前、県都から新湊市に広がり、さらに3年前に砺波市、そして今年は黒部市と合わせて四カ所で開かれる。それぞれの地で父母が歌い、息子、娘が歌い、そして孫が歌う。なんとも微笑ましい光景である。

その黒部でのコンサートの伴奏がピアノと聞いて驚いた。それもいきなり、第4楽章からである。しかし、よく聞いてみるとピアノは10台、すべてが楽器の町・浜松から直送の音色の揃ったものという。第1楽章から第3楽章までの前触れのないうた「歓喜」の大合唱は、一気に最高潮へ盛り上がるだろう。

黒部の名水とともに、将来とも心に残る「第九」の成功を祈りたい。

新しいうねりを

北日本放送株式会社代表取締役社長 横山良一



名水の里、黒部で第九のコンサートが開かれることになりました。立山連峰から流れ下る清冽な水のイメージとベートーヴェンの雄渾な音楽が、ここ黒部の地で一つに溶け合う今回のコンサートを心ゆくまで楽しんでいただきたいと思います。

ベートーヴェンの第九交響曲を市民が集い歌う試みは、富山県内でも富山市、新湊市、砺波市と広がりをみせています。その中で、きょうの黒部でのコンサートは、10台のピアノと20人のピアニストがオーケストラパートを受け持つ全国でも珍しい形で行われます。20人40手のタッチが十の鍵盤上を駆け巡り、それに応えて黒部に集った人々の歌声がこだまする。想像するだけで胸が高なるのを感じます。

この画期的なコンサートが黒部に新しい文化創造のうねりをつくり出すきっかけになることを念願するとともに、ベートーヴェンの音楽から、そうした新しい動きへの力を感じ取るべく耳を澄ませたいと思います。

心から心へ

富山県合唱連盟理事長 新井文男



「名水の里に響け、歓喜のハーモニー」のタイトルのもと、第1回「黒部で第九を歌う会」の演奏会の開催を心からお喜び申し上げます。この黒部で始まる第九公演の幕開けにふさわしい、力あふれる歌声が響きわたることを期待します。

私は第九公演に携わるたびに、「心より出——そして再び——心にかえらん」というベートーヴェンの言葉を思い返しています。彼が第九交響曲と同じ頃に作曲した荘厳ミサ曲ニ長調のスコアの冒頭に書き記した言葉として有名であります。直接に第九についての言葉ではありませんが、その頃の彼の音楽への気持を表すものであると思われます。ベートーヴェンの心から出た音楽が、聴く人、また演奏する人の心に、文字どおり、心から心へ結ばれることへの願いでありましょう。また私は音楽の本質を表す言葉であると思っています。今日の第九公演においても、歌う人、聴く人が共に、力強く「Freude!」と歌うとき、私たちの心は、ベートーヴェンと一緒にすばらしい歌を歌い始め、一人一人の心の中に新しい世界が作り出されて来るでしょう。そしてこの音楽の大きな流れの中で、私たちは一つになると確信します。

Program

1. ベートーヴェン

エグモント序曲 ヘ短調 作品84

(ピアノ2台8手)

山崎道子 東 健治

武藤憲夫 里見治美

2. ブラームス

2台のピアノのためのハイドンの
主題による変奏曲 作品56b

(ピアノ2台4手)

森山ゆり子 森山光子

—————〈休憩〉—————

3. 4人のソリストによる

オペラ・アリア名曲集

ビゼー：歌劇「カルメン」より

ハバネラ

岩森美里

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より

女心の歌

福井 敬

ヴェルディ：歌劇「シモン・ボッカネグラ」より

あわれなる父の胸は

高橋啓三

プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」より

ある晴れた日に

岩井理花

—————〈休憩〉—————

4. ベートーヴェン

交響曲第九番 二短調 作品125

「合唱付き」第4楽章

黒部で第九を歌う会

Program

1. ベートーヴェン

エグモント序曲 ヘ短調 作品84

(ピアノ2台8手)

山崎道子 東 健治

武藤憲夫 里見治美

2. ブラームス

2台のピアノのためのハイドンの
主題による変奏曲 作品56b

(ピアノ2台4手)

森山ゆり子 森山光子

—————〈休憩〉—————

3. 4人のソリストによる

オペラ・アリア名曲集

ビゼー：歌劇「カルメン」より

ハバネラ

岩森美里

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より

女心の歌

福井 敬

ヴェルディ：歌劇「シモン・ボッカネグラ」より

あわれなる父の胸は

高橋啓三

プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」より

ある晴れた日に

岩井理花

—————〈休憩〉—————

4. ベートーヴェン

交響曲第九番 二短調 作品125

「合唱付き」第4楽章

黒部で第九を歌う会

Program Note

ベートーヴェン：エグモント序曲 へ短調 作品84

ゲーテが12年の歳月を費やして完成した5幕の悲劇「エグモント」は、16世紀のオランダの独立運動の偉大な指導者エグモント伯爵の悲劇的な生涯を描いたもので、ベートーヴェンがこの劇のために付帯音楽をかけたのは40歳のときです。この序曲は悲劇的な序奏を持ったソナタ形式で、主部に入ってから現われる2つの主題は、剛毅な反面やさしい愛情を持ったエグモント伯爵の性格を巧みに表しています。

物語はエグモント伯爵がスペイン王フィリップ二世の虐政に反抗しオランダ独立のために奮起したところ事ならず捕らえられ、その愛人クレールヒェンは彼を救おうとしたが危機に陥りついに自殺してしまいます。エグモントは苦悩の後に死の勝利を感じつつ断頭台上の人となるのです。この序曲のクライマックスの終結部では、劇の最後でエグモント伯爵が断頭台上に上がるときに演奏される「勝利の交響曲」の旋律がそのままそっくり使われています。

J・ブラームス：ハイドンの主題による変奏曲 作品56b

ヨハネス・ブラームス(1833-97)は声楽曲やオーケストラ作品で多くの傑作を残しているが、彼が最も得意とした楽器はピアノでした。特にクララ・シューマンと二人で弾くことを想定して作曲した2台もしくは連弾のピアノ作品は、このジャンルで最も輝かしい遺産として今日に伝えられています。

ブラームスにこのジャンルの傑作が多くあるのはオーケストラ曲を作曲するときに、まずピアノ曲を書き上げてそれをオーケストレーションするという方法をとったためです。この「ハイドン・ヴァリエーション」もそうした経緯で作曲されたもので、一般に知られている管弦楽曲は作品56aで、この連弾曲は56bで表されています。

曲はF. J. ハイドン(1732-1809)がダイヴェルティメントに使ったメロディー(オリジナルはさらに古い賛美歌と言われている)を主題(アンダンテ 変ロ長調 2/4拍子)にして、8つの変奏と終曲から出来ていて、1873年の夏にバイエルン地方のトゥッツィングへ避暑に行ったときに作曲されたものです。

ビゼー：歌劇「カルメン」より

ハバネラ

歌劇「カルメン」は、19世紀フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼーの代表作で遺作となった作品です。今や世界中で広く親しまれており古今の歌劇の中では特に人気の高いフランスロマン派歌劇の傑作です。物語は1820年頃のスペインのセビリヤを舞台に展開されます。男の名はドン・ホセ、女の名はカルメン。場面は煙草工場の門の前で数人の兵士たちに花を投げて挑発するジプシー女のカルメン、その花をポケットにしまいこんだドン・ホセ。彼は許婚ミカエラがいるのに自由奔放に生きるカルメンの妖しい魅力にひかれていきます。しかしカルメンは闘牛士エスカミーリョに心を移してしまい、嫉妬に燃えたドン・ホセが愛ゆえにカルメンを刺し殺してしまいます。

このハバネラはカルメンが自分に無関心なドン・ホセの気持ちを引こうと誘いをかけながら「恋は野の鳥捕まえても逃げるし、逃げたと思えばまた手に入る…恋には法もルールもない…」と歌い、手にした花をホセに投げつけて去ります。

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より

女心の歌

原作は、ヴィクトル・ユーゴーの戯曲「逸楽の王」にもとづくものです。しかし、フランソワ一世の乱行を描いたものだったので、たちまち上演禁止の憂き目にあうという曰くつきのものでした。そこで、ヴェルディは題名はもとより、人名、地名のいっさいをかえたのです。つまり、舞台を原作のパリからマントーヴァに、そして、フランソワ一世をマントーヴァ公爵としました。さて、この好色のマントーヴァ公爵がジルダという美しい娘に目をつけます。しかし、彼女は公爵の道化師リゴレットの溺愛する一人娘でした。純情なジルダは公爵の浮気心も知らず彼を愛するようになりそれ故に死んでいきます。このアリア「風のなかの羽のように～女心の歌」は第3幕の冒頭で公爵が歌います。

ヴェルディ：歌劇「シモン・ボッカネグラ」より

あわれなる父の胸は

グティエレスの原作をピアヴェが脚色したこの曲は、ジェノヴァにおける最初の民衆から選ばれた大統領ボッカネグラを中心に、貴族派と平民派の争いとこれにまつわる愛憎の世界を描いています。しかし1857年にフェーニチエ劇場で発表されたこの曲は残念にも失敗に終わり、現在のものは後にボイトの手で改正が施されたものです。「あわれなる父の胸は」は、娘を亡くした父親の悲しみと、死に導いた恋人への怒りをこの歌の中に独白しています。

プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」より

ある晴れた日に

歌劇「蝶々夫人」は、明治初期の長崎を舞台にしたロングの小説をベラスコが劇化した芝居をみて、プッチーニが2幕の歌劇に作曲したものであり、アメリカの海軍中尉ピンカートンに見初められ15歳の春に結婚した蝶々さんの悲劇はあまりにも有名です。

「ある晴れた日に」はアメリカに戻ってしまったピンカートンを思い、「ある晴れた日、海のかなたに煙が一筋見えて、船の姿が現われる…帰っていらしたわ…」と歌われるドラマチックなアリアです。

交響曲第九番 ニ短調 作品125「合唱付き」

シラーの頌歌「歓喜に寄す」を終章に用いたこの壮大な「第九番」は古今の交響曲を通じての最高峰といつてよいでしょう。ベートーヴェンがこの曲を完成したのは、世を去る3年前、1824年(54歳)のことですが、彼がこのシラーの愛と歓喜をテーマにした詩に曲を付けようと考えたのはまだ彼が故郷のボンにいた22歳のころです。

交響曲に人声を加えるということは、当時としては大冒険でしたが、ベートーヴェンはその難事業を立派に成し遂げました。人声はオーケストラに従属することなく、またオーケストラは人声に従属することなく、人声とオーケストラは完全に融合し、一体となって「抱かんとろ人よ、心合わせて…」とこの頌歌は盛大に歌いあげるのです。この曲を聴くとベートーヴェンが単なる芸術家ではなく、偉大な思想家であったことがよくわかります。彼はこの曲を通じて人間の生命の尊さ、平和と自由のもたらすよろこびというものを全世界の人々に強く呼びかけているのです。

聴くたびごとに新たな美しさを発見し、新たな感動をよびおこすこの不朽の大傑作は、永遠に演奏され続けるでしょう。

歓喜の歌

《ベートーヴェンの自作》

おお、友よ、この音楽ではない。
もったところよい、
もっと喜びに満ちた音楽を、
われわれはかなてよる。

《F. シラー原詩》

喜びよ、美しい神々の火花よ、至福の島エリージウムの娘よ、
われわれは火のように酔いしれて、崇高なところ、おまえの聖所へ踏み入る。
おまえの魔力は世のならわしがきびしく別けへだてたものを
ふたたび結び合わせ、すべての人びとは
おまえのやさしい翼のやすらうところに兄弟となる。
一人の友の友となる大きな成功を得たものは、
やさしい妻をかち得たものは地上にただ一つの魂でも
自分のものと呼びうる者は、その歓喜をともにせよ。
そしてそれができなかった者は、
泣きながらひそかにこの仲間から立ち去るがよい。

すべてのものは自然の乳房から喜びを飲む。
すべての善いものも、すべての悪いものも、
自然のバラ色の道を辿ってゆく。自然はわれわれに接吻を与え、
ぶどうと、死の試を経た友を与えた。快樂は虫に与えられた。
そして光の天使ケルプは神の前に立つ。うれし気にひかりかがやく太陽が
壮麗な天界をわたるように、兄弟たちよ、
英雄が勝利に向かってすすむように、きみたちの道を喜ばしく進め。

数百万のひとびとよ、抱き合え。この接吻を、全世界へ。
天空のあなたに愛する父が住んでいるにちがいない。
きみたちはひざまづくか、
数百万のひとびとよ。
創造主に気付くか、世界よ。
天空のあなたに創造主を求めよ。
星のあなたに彼は住んでいるに違いない。

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern lasst uns angenehmere
Anstimmen, und freudenvollere.

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken, Himmlische, dein Heiligtum!

Deine Zauber binden wieder, was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder, wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der grosse Wurf gelungen, Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen, Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele sein nennt auf dem Erdenrund!

Und wer's nie gekonnt, der stehle,
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen, an den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen Folgen ihrer Rosenspur.

Küsse gab sie uns und Reben, Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben, Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen, fliegen durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet! Brüder, eure Bahn, freudig, wie ein Held zum Siegn.

Seid umschlungen, Millionen! Diesen Kuss der ganzen Welt!
Brüder! üderm Sternenzelt muss ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such ihm überm Sternenzelt!

Über Sternen muss er wohnen.

Conductor & Soloist

ど い ひろし
土井 浩 (指揮)



武蔵野音楽大学トランペット専攻卒業。同大学専攻科に進む。
昭和36年より齊藤秀雄氏に指揮法を師事。39年より読売日本交響楽団ライブライアンとして勤務。42年から富山女子短期大学に勤務。かたわら富山高校、高岡商業高校の吹奏楽及び富山大学フィルハーモニー管弦楽団の指導にあたり共に、「金管とオルガンの夕べ」など、アンサンブル・コンサートを開催。昭和50年より平成4年まで武蔵野音楽大学同窓会県支部長として「むさしの会研究演奏会」を開催。昭和58年富山シティフィルハーモニー管弦楽団発足と同時に指揮者となり、現在に至る。平成4年8月新湊海王丸パークにおける第九交響曲演奏会を指揮。富山女子短期大学教授、富山県オーケストラ連盟副理事長。

い わ い り か
岩井 理花 (ソプラノ)



東京芸術大学及び同大学院に学ぶ。
高橋大海、瀬山詠子、河井弘子、リア・グァリーニ、アルフォンゾ・シリョッティの各氏に師事。
1985年第54回日本音楽コンクール第2位入賞。1986年文化放送音楽賞受賞。
翌年より、イタリアのミラノに留学。ノヴァラ国際声楽コンクール入賞。ティト・スキエパ国際声楽コンクール第2位(1位なし)入賞。1989年イタリアのレッチェ市、ポリテアマ歌劇場で「ラ・ボエーム」のムゼッタでイタリアデビュー。続いて「ファウスト」のマルガリーテ、「蝶々夫人」のタイトルロールを歌う。1990年に帰国し、二期会創立40周年記念公演として上演された1991年の「神々の黄昏」ではヴェルグンデを、1992年の「カルメン」ではメルセデスを歌い、公演の成功に寄与している。1993年「ラインの黄金」ではフライア役を演じる。また、1992年第1回藤沢オペラコンクールで第2位を受賞し、藤沢オペラ「トゥーランドット」でリュウ役を演じる。オペラ以外では「第九」のソロ、ミサ曲、宗教曲、歌曲にも力を注いでいる。NHKのFM、土曜リサイタルなどにも録音。幅広いレパートリーで実力を認められている。二期会会員。

国際
ピアノデュオ
協会会員

Piano I



亀田 薫
(開進堂楽器)



碓井陽子
(ピアノ講師)



古川浩美
(島根大学)



本郷和子
(島根大学)

Piano II



里見治美
(富山音楽院)



武藤憲夫
(富山女子短期大学)



森山光子
(サングリエピアノ教室)



森山ゆり子
(武蔵野音楽大学)



山崎道子
(富山大学)



渡辺三和子
(国立音楽大学)

いわもり みさと
岩森美里 (アルト)



国立音楽大学卒業。同大学院修了。
畑中更子、畑中良輔、中村健、島田和子、ニーナ・スターノ、正田生次郎の各氏に師事。
二期会オペラスタジオ第27期生修了後、オペラ研修所第5期生修了。文化庁派遣芸術家在外研究員としてウィーンへ留学。1982年「フィガロの結婚」でオペラ・デビュー。二期会オペラスタジオ卒業公演「カルメン」ではタイトルロールを見事に演じ、特別賞を受賞。1986年二期会公演「ワルキューレ」のロスヴァイセ以降、1988年「メリー・ウィドー」のラシュヴィア、1989年「ヘンゼルとグレーテル」のゲルトルト、1990年「フィガロの結婚」のマルチェリーナ、1991年二期会創立40周年記念公演「神々の黄昏」の第二のノルンの他、青山劇場「フィガロの結婚」のケルビーノ、「テイドとエネアス」の魔女、「蝶々夫人」のスズキなどを演じている。1992年3月には二期会40周年記念公演、二期会初の原語上演「カルメン」でタイトルロールに抜擢され、好評を博した。コンサートでは「第九」「メサイヤ」「エアリア」などに出演している。二期会会員。室内歌劇場会員。

ふくい けい
福井 敬 (テノール)



国立音楽大学卒業。卒業時に矢田部賞受賞。同大学院声楽専攻オペラコース修了。
平野忠彦、伯田好史、布施隆治、V. ボッローニの各氏に師事。1987年第18回イタリア声楽コンクールにおいて、第2位及びテノール特別賞を受賞。1988年文化庁芸術家国内研修員。1989年二期会オペラスタジオ第32期研究生修了。修了時に優秀賞及び川崎静子賞受賞。第20回イタリア声楽コンクールにおいてミラノ大賞(第1位)を受賞。1990年オペラ研修所第7期生修了。文化庁芸術家在外研修員として1年間イタリアのミラノへ留学。1992年第20回ジロー・オペラ賞の新人賞を受賞。
1992年5月に二期会オペラ「ラ・ボエーム」のロドルフォ役で二期会デビューし、その後も「こうもり」のアルフレード、「シモン・ボッカネグラ」のガブリエーレなどに出演している。他にも「魔笛」「コシ・ファン・トゥッテ」「イドメネオ」「フィガロの結婚」「劇場支配人」「蝶々夫人」「道化師」「3つのオレンジへの恋」「アドリアーナ・ルクヴール」「昔噺人買太郎兵衛」などに出演。コンサートでも、「第九」「メサイヤ」「レクイエム」「戴冠ミサ」「天地創造」「火刑台上のジャンス・ダルク」などのソリストの他、数多くの演奏会や録音に出演。二期会会員。

たかはし けいごう
高橋 啓三 (バス)



東京芸術大学卒業。
磯谷威、大熊文子、中山悌一、渡邊高之助の各氏に師事。
第44回日本音楽コンクール第2位入賞。1982年第10回、及び1989年第17回ジロー・オペラ賞を受賞。
芸大在学中に「トスカ」のアンジェロッチェでデビュー。その後、二期会を中心に藤原歌劇団、イタリア歌劇団(NHK)、日本オペラ、オペラプロデュースなどの公演に出演。豊かな声量を誇る美声のバス・カンタービレとしてオペラに欠くことのできない存在である。主な役に「フィガロの結婚」のフィガロ、「魔笛」のザラストロ、「リゴレット」のスパラフチレ、「愛の妙薬」のドゥルカマール、「タンホイザー」のヘルマン、「夕鶴」の惣ど、「修禅寺物語」の夜叉王などがあり、スケールの大きい歌唱力と演技で絶賛されている。1991年二期会創立40周年記念公演「神々の黄昏」のハーゲン、さらに、二期会創立40周年記念公演「ラ・ボエーム」のホルリーネや、「シモン・ボッカネグラ」の悪役ヤコブ・フィエスコでも大好評を博した。1993年7月にはワーグナー「ラインの黄金」のファーフナーに出演予定。またコンサートの分野でも「第九」「レクイエム」「メサイヤ」「マタイ受難曲」「ロ短調ミサ」「森の歌」など幅広いレパートリーを持ち、オラトリオ歌手としての地位を築いている。二期会会員。

III



東 健治
(開進堂楽器)



鈴木みどり
(国立音楽大学)

Piano IV



高野麻輝子
(富山音楽院)



福永みゆき
(新宿ヤマハピアノ教室)



村梶聡美
(ピアノ講師)



中西真弓
(中西音楽教室)

Piano V



板 直子
(開進堂楽器)



赤倉洋子
(開進堂楽器)



長崎裕子
(開進堂楽器)



丘山直美
(富山国際大学付属高校)

アリア伴奏



加藤 徹
(洗足学園魚津短期大学)



「黒部で第九を歌う会」

member

ソプラノ

芦崎美恵子
 伊藤容子
 稲場恵美子
 伊野久美子
 上野京子
 上野志津子
 大勢待祐美子
 大田ゆか子
 大野美鈴
 大音頭万里子
 金山直美子
 金山智子
 吉島加都子
 経田恵子
 木野本靖子
 木村留美子
 黒川恭子
 黒崎洋子
 坂口弘美子
 坂本利美子
 杉山見玲子
 高竹内智美子
 田村志砂美子
 大門雅子
 土井暁雅子
 長飛弾美智子
 西箱山靖子
 橋爪千恵子
 浜屋真美子
 林亜紀子
 福島倫子
 藤森真由美子
 舟川晶子

古川敏子
 村椿悦子
 村椿尚美子
 森真由美子
 結城美喜子
 牧野和子
 松原則子
 間部澄子
 三浦博子
 宮崎己生子
 吉枝久美子
 吉野きみ子
 泉由美子
 君島良子
 城奈美子
 谷村雅美子
 道寛宏美子
 中谷靖子
 中新真智乃子
 萩原由有子
 羽柴明子
 畠山明美子
 廣川慶佳美子
 前島睦まどか子
 山横三井香

アルト

青島三千代
 朝倉一美子
 朝田美尾子
 新井圭子
 飯田直美子
 五十嵐有里子
 池村玉江子
 石崎美佐子
 泉野千秋美子
 井田朱多鶴子
 稲沢博子
 岩田Wilma Lynn Luth
 上原暁美子
 梅原恵美子
 浦田美保子
 扇谷芙美子
 大坪由美子
 大勢待千枝子
 大野順子
 大田美恵子
 荻野基子
 小倉沢みつ子
 小開道子
 加藤藤谷きみ子
 紙西米かず江子
 川塚京久美子
 経木本幸子
 熊野澤直美子
 越島尚美子
 小小林登美子
 佐々木惇子

鮫沢ひろ子
 三田慶子
 篠田真寿美子
 清水知美子
 清城保玲子
 城崎宏美子
 神保隆尚子
 関岡村広子
 高高本一恵音子
 高高森知美和子
 竹内野ゆり子
 館中さよ子
 田谷口文真美子
 谷口真智子
 大上戸丸幸子
 大地崎信美智子
 辻寺崎能真知子
 得能沢富美子
 飛世静ちか子
 飛世坂陽子
 中坪幸子
 七野久美子
 能村真智子
 長谷川保寿子
 長谷川結由美子
 岡光

「黒部で第九を歌う会」

●役員

会 長／森丘 實

副 会 長／河村一郎

寺田義実

田中純子

吉田孝広

顧 問／宮腰光寛

堀内三郎

北日本新聞社

北日本放送(株)

富山県合唱連盟

参 与／黒部市芸術文化振興協会

黒部ライオンズクラブ

黒部ロータリークラブ

監 事／島倉敏夫

北山善之進

理 事 長／松倉正機

副理事長／武藤憲夫

森野泰夫

長谷川光一

理 事／木下博信

高島信行

荻野真人

広野 誠

浦田てるの

高岡尚子

前田ふさ

田中義三

事務局長／三井適夫

川原辰雄

松井正春

鷹田利治

沢田邦男

亀谷政春

川端康夫

川本元充

北山善章

国香正了

中井紘明

堀内康男

山口正人

山谷国昭

中田勝代

伊東景治

間部澄子

●特別講師

土井 浩

新井文男

中村義朗

森川紀博

岩井理花

●合唱指導者

椿 秀雄

武藤憲夫

澤谷美也子

中田勝代

二本松洋子

三井 香

●練習伴奏者

野上真理子

法原留美佳

芹澤仁美

新井智子

第九友の会会員

朝倉貞夫	黒部市民病院	寺田美山	(有)美山
朝倉秀芳	(有)カーメンテナンス朝倉社長	飛島邦彦	共和土木(株)代表取締役
浅野博	浅野ヒック家具工業(株)社長	中井紘明	中井酒店代表
旭電子(有)		中上彬	第九友の会会長
油谷靖彦	桜井建設(株)専務取締役	中島重春	中島観光百貨店社長
池田健吉	池田内科医院	中瀬馨	ホテルロイヤルバリー黒部社長
池田康宏	池田電設興業(株)社長	中田陽一	黒部市建材(株)代表取締役
石田雅一	ホテル桃源社長	中西清一	(株)トヨックス代表取締役
石丸信一	(株)石丸楽器代表取締役	中谷唯一	黒部造形研究所(アートハウスなかや代表)
岩井睦雄	岩井建具店	中谷延之	宇奈月町長
岩瀬新二	皇国晴酒造(資)代表	中島勝己	ホテル黒部代表取締役
浦田てるの	黒部市連合婦人会	難波和男	北陸銀行黒部支店長
延対寺敬	(株)宇奈月延対寺荘代表取締役	西村嘉久治	中央化学(株)北陸工場長
大坪健	大坪法律事務所	能登肇	立山工機(株)代表取締役
大坪作磨	(株)生地第一温泉代表	橋本良充	(株)バ・ド・ドゥ
大野久芳	黒部市議会議員	長谷川光一	東洋センマイ(株)代表取締役
大橋聡司	大高建設(株)取締役	長谷川徹	(株)長谷川工務店代表取締役
沖春海	黒部市民病院	島平興作	島平司法書士事務所
荻野幸和	黒部市長	浜田浩志	(株)延楽代表取締役
瀧田正夫	瀧田石油(株)社長	平岡国雄	桜井ハム常務
加藤耕一	加藤楽器代表	広野恵美子	装苑ひろの代表
金山宏明	カナヤママシナリー(株)代表取締役	広野誠	装苑ひろの
金田亮	金田外科医院	舟屋悦郎	(株)ふなや代表取締役
亀谷政春	(株)サニードライブロダクト代表取締役	堀内三郎	富山県議会議員
(株)河合楽器製作所		堀内康男	(株)堀内商会常務
川端純一	川端鐵工(株)代表取締役	前田ふさ	黒部市連合婦人会
川端康夫	川端鐵工(株)専務	松井哲雄	松井運輸(株)代表取締役
河村一郎	河村左官工業所専務	松木祐一	YKK松木協力工場
川本元充	北陸機材(株)代表取締役	松倉正太郎	黒部市議会議長
北山善之進	北山歯科クリニック	松倉正機	(有)松倉呉服店代表
北山良清	(有)北山仏具店代表	丸田賢一	(株)丸田組会長
国香正了	称名寺副住職	三田博	(株)ミタックス代表取締役
黒瀬範昭	関西電力(株)新御原宇奈月水力発電所建設所長	三井適夫	(株)ミツイ代表取締役
米屋正治	北星ゴム(株)代表取締役	宮腰光寛	富山県議会議員
神谷尚機	桜井交通(株)代表取締役	武藤憲夫	富山女子短期大学助教授
斎藤欽彌	日鉱亜鉛(株)代表取締役社長	武藤葉子	黒部音楽院講師
坂井勉	(株)喜泉閣代表取締役	森丘實	第九を歌う会会長
佐藤進也	(株)さとのや代表取締役	森丘和香子	黒部市
沢田邦男	黒部市教育委員	八木正	黒部市
三箇武	(有)フジエージェンシー代表	山口正人	(株)山口技研代表取締役
柴田幸三	(株)しばた社長	山谷国昭	(有)山谷書店代表取締役
島倉敏夫	吉田工業(株)常務取締役	山野晋	ダイヤテックス(株)常務取締役
島田正豊	島田歯科医院	横川英男	(株)宇奈月グランドホテル専務取締役
菅野寛二	菅野印刷興業(株)代表取締役	吉田忠雄	吉田工業(株)取締役社長
高岡尚子	黒部市連合婦人会	米沢直昭	米沢商店代表
高桜英輔	黒部市民病院院長	米田博	(株)アイル社長
武隈一郎	武隈鉄工(株)代表取締役	渡部佐敏	(有)タートルライン
田中義三	(株)生地温泉たなかや代表取締役	四月朔日	宇奈月通運(株)取締役
田中純子	黒部市議会議員		
寺田義実	寺田商店代表		

あいうえお順(敬称略)

●ピアノ10台は(株)河合楽器製作所の御好意によるものです。



主 催 ● 黒部で第九を歌う会

北日本新聞社

北日本放送

富山県合唱連盟

後 援 ● 黒部市

黒部市教育委員会

黒部市芸術文化振興協会

黒部ライオンズクラブ

黒部ロータリークラブ

黒部青年会議所

黒部商工会議所青年部

黒部市連合婦人会

黒部市連合青年団

国際ピアノデュオ協会

株河合楽器製作所

協 賛 ● YKKグループ